

神戸市いじめ問題再調査委員会からの提言に対する履行状況の検証・評価の進捗状況
(第 3 回 検証・評価ヒアリングの結果報告)

1. これまでの開催状況

- (1) 第 1 回 検証・評価ヒアリング (於：神戸市勤労会館 406 講習室)
開催日時：令和元年 11 月 25 日 (月) 18 時 30 分～20 時 30 分
- (2) 第 2 回 検証・評価ヒアリング (於：神戸市役所 1 号館 21 階 1212 会議室)
開催日時：令和 2 年 3 月 23 日 (月) 19 時 30 分～21 時 00 分
- (3) 第 3 回 検証・評価ヒアリング (於：神戸市総合教育センター 701 号室)
開催日時：令和 2 年 7 月 1 日 (水) 10 時 00 分～12 時 00 分

*いずれも、3 委員 (春日井委員、三木委員、渡邊委員) 全員が出席

2. 教育委員会事務局からの説明概要

- ・ 神戸市いじめ問題審議委員会 (教育委員会の附属機関) から提案されたロードマップを基に作成した「教育委員会が取り組む実施プログラム」について説明。
- ・ 「子供理解」、「学校組織」、「地域・多職種連携」、「いじめ対応」の 4 つのテーマを軸とした実施プログラムについて、優先順位、短期・中期・長期の別、具体的な取組方針などを説明。
- ・ 不祥事の再発防止と組織風土改革に取り組む「教育委員会改革 実施プログラム」の進捗状況について説明。

3. 主な検証委員の発言・指摘

- ・ 4 つのテーマ、短期・中期・長期に分類された実施プログラムは分かりやすく整理されていると感じる。
- ・ 4 つのテーマのうち、「いじめ対応」の位置づけについて、「子供理解」との相互関係を整理して欲しい。いずれも「いじめの早期の発見・対応」を目的とする施策を含んでいる。「いじめ対応」はこのプログラムの中心に位置すべきである。
- ・ いじめ対応で重要な視点は、未然防止、初期対応、重大事態への対応の三点。各学校の良い対応事例を出し合ってプログラムに取り込んで欲しい。アセス、アンケートは学級全体を把握する入り口と捉えて、個別事案の初期対応をしっかりとできるプログラムにして欲しい。事案を重大化させないためにもこの点は重要。
- ・ 今回のプログラムは、取組の“足し算”の構成になっている。現場の無用な事務・混乱を避けるための“引き算”の視点も必要である。
- ・ 長期の取組による成果が出るのは 10 年後になる。プログラムに「10 年後の子どもたちの姿や成長」「教員がめざす 10 年後の姿」を含めることで現場の教員も趣旨を理解しやすくなる。同時に、着実な実行を担保する仕組みも必要である。